

科目分類	英語特別演習I		対象学年	1
授業科目	英語特別演習I		学期	春学期
代表教員	江口 真理子		選択/必修	選択
科目コード	H901101	授業形態	講義	単位数 1.0
授業の概要	<p>英語はビジネスだけでなくアカデミックな世界においても国際共通語として広く通用している。英語で書かれた専門的な論文や著書から、正確に、かつ、素早く情報を収集する読解力は、研究者を目指す者にとって不可欠の能力である。</p> <p>アカデミックな英文を理解するには、一般的な語彙と文法力、および、専門知識の知識に加えて、アカデミックなテキストの構造を知ることが有用である。専門的な論文の著者は意図をもって論文を執筆し、自己の主張を読者に受け入れてもらえるように論文を組み立てている。アカデミックな英文は明確な目的を持った文であるので、著者の主張とその展開方法に注目することによって、英文を効率的に読解することが可能となる。</p> <p>本講座では、アカデミックな英文の理解力を高めるために、リーディングのスキルを修得する。アカデミックな英文に特有のマクロ構造に注目するスキルを身に付け、速読の力をつける。マクロ構造とは、目的・イントロ・ボディ・結論・概要と詳細・文章の流れの方向等である。また、スキミング・文構造単純化・パラフレーズ、主題の見つけ方、支持文の見つけ方、アウトラインやサマリーの作り方を学び、幅広いリーディングスキルを育成する。</p> <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 アカデミックな単語を理解できる 2 アカデミックなテキストを読むことができる <p>【到達目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 アカデミックな単語を理解できる 2 アカデミックなテキストを読むことができる 			
授業の内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 ライティングのプロセス 2 テキストの種類 3 批判的な読み 4 タイトルの理解 5 重要な論点 6 パラフレーズ 7 要約 8 パラグラフの構造 9 序論と結論 10 ディスカッション 11 原因と結果 12 一貫性 14 比較 15 定義 			
テキスト	Stephen Bailly. (2011). Academic Writing: A Handbook for International Students. Routledge			
参考文献				
評価方法	授業参加 40% リーディングテスト 60%			
参考URL				
その他	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業参加 20% 2. 小テスト 30% 3. 期末テスト 50% 			

科目分類	英語特別演習II			対象学年	1
授業科目	英語特別演習II			学期	秋学期
代表教員	江口 真理子			選択/必修	選択
科目コード	H901102	授業形態	講義	単位数	1.0
授業の概要	<p>英語はビジネスだけでなくアカデミックな世界においても国際共通語として広く通用している。英語で書かれた専門的な論文や著書から、正確に、かつ、素早く情報を収集する読解力は、研究者を目指す者にとって不可欠の能力である。</p> <p>アカデミックな英文を理解するには、一般的な語彙と文法力、および、専門知識の知識に加えて、アカデミックなテキストの構造を知っていることが有用である。専門的な論文の著者はなんらかの意図をもって論文を書き、なんらかの主張を読者に受け入れてもらえるように内容を構成している。アカデミックな英文は明確な目的を持った文であるので、著者の主張とその展開方法に注目することによって、英文を効率的に読解することが可能となる。</p> <p>本講座では、アカデミックな英文の理解力を高めるために、リーディングのスキルを修得する。アカデミックな英文に特有のマクロ構造に注目するスキルを身に付け、速読の力をつける。マクロ構造とは、目的・イントロ・ボディ・結論・概要と詳細・文章の流れの方向等である。また、スキミング・文構造単純化・パラフレーズ、主題の見つけ方、支持文の見つけ方、アウトラインやサマリーの作り方を学び、幅広いリーディングスキルを育成する。テキストは、人文系の学問、心理学、経営学、経済学、政治学、言語学等の学問分野で用いられる用語を中心としたテキストを用いる。</p> <p>【到達目標】 リーディングスキルを使ってアカデミックな英文を読む</p>				
授業の内容	<ol style="list-style-type: none"> 1 例 2 一般化 3 数字 4 問題と解決 5 スタイル図表 6 グループワーク 7 省略、アカデミックな語彙 8 冠詞、接続詞 9 名詞、形容詞、動詞 10 前置詞、句読法 11 類義語 12 報告書、事例研究 14 文献、サーベイ 15 論文 				
テキスト	Printed materials				
参考文献	Printed materials				
評価方法					
参考URL					
その他	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業参加 30% 2. 期末試験 70% 				

科目分類	中国語特別演習I			対象学年	1
授業科目	中国語特別演習I			学期	春学期
代表教員	陳 仲奇			選択/必修	選択
科目コード	H901103	授業形態	講義	単位数	1.0
授業の概要	<p>この授業は、大学院生の中国語文献の読解力を高めることを目的とする。テキストは、高度な原文資料を用い、音読や文法事項の解説のほかに、文章の社会的、文化的背景や生活習慣などに対する理解も視野に入れて、受講生に実践的中国語能力を身に付けてもらうことを目指す。</p> <p>具体的には、受講生の実力を見て判断したうえで、個人的な要望も配慮しながら、テキストの選定、授業進度と到達目標を設定する。</p>				
授業の内容	<p>授業は第1課から第10課を範囲として、現代文献の読解を中心に行う予定である。</p>				
テキスト	孫樹林 王欣 等『佳縁漢語』（中国語入門・初級テキスト）朝日出版社2015年版 2,300円				
参考文献	参考資料は、インターネット、新聞、雑誌、書籍などを含めた広範囲な学習資料を活用し、プリントとして随時に配布する。				
評価方法	授業はグループ討論の形で行われます。毎回、授業に出席する時は、教科書を予習復習することを要求します。成績の評価は、平常点と中間テストと期末試験によって行います。				
参考URL					
その他					

科目分類	中国語特別演習Ⅱ			対象学年	1
授業科目	中国語特別演習Ⅱ			学期	秋学期
代表教員	陳 仲奇			選択/必修	選択
科目コード	H901104	授業形態	講義	単位数	1.0
授業の概要	<p>この授業は、大学院生の中国語文献の読解力を高めることを目的とする。テキストは、高度な原文資料を用い、音読や文法事項の解説のほかに、文章の社会的、文化的背景や生活習慣などに対する理解も視野に入れて、受講生に実践的中国語能力を身に付けてもらうことを目指す。</p> <p>具体的には、受講生の実力を見て判断したうえで、個人的な要望も配慮しながら、テキストの選定、授業進度と到達目標を設定する。</p>				
授業の内容	<p>授業は第11課から第20課を範囲として、現代文献の読解を中心に行う予定である。</p>				
テキスト	孫樹林 王欣 等『佳縁漢語』（中国語入門・初級テキスト）朝日出版社2015年版 2,300円				
参考文献	参考資料は、インターネット、新聞、雑誌、書籍などを含めた広範囲な学習資料を活用し、プリントとして随時に配布する。				
評価方法	<p>授業はグループ討論の形で行われます。毎回、授業に出席する時は、教科書を予習復習することを要求します。</p> <p>成績の評価は、平常点と中間テストと期末試験によって行います。</p>				
参考URL					
その他					

科目分類	韓国語特別演習I		対象学年	1
授業科目	韓国語特別演習I		学期	春学期
代表教員	鄭 世桓		選択/必修	選択
科目コード	H901105	授業形態	講義	単位数 1.0
授業の概要	<p>[入門レベル] 韓国語の習ったことのない受講生の場合には、文字や発音からはじめ、基礎的な文法や表現などを身につけることを目標とする。</p> <p>[初級、中級、上級レベル] すでに韓国語を習ったことのある受講生の場合には、それぞれのレベルに合わせ、講読形式の授業を行う。</p>			
授業の内容	<p>[入門レベル] 文字や発音について学習した後、基本的な文法や語彙、会話の能力を向上するための授業とする。</p> <p>[初級、中級、上級レベル] それぞれのレベルに合わせて、新聞や小説、専門図書などの本を読み、読解能力を身につけてもらう。</p>			
テキスト	<p>[入門レベル] 『パルン韓国語』朝日出版社 2017年</p> <p>[初級、中級、上級レベル] 担当教員が用意する。</p>			
参考文献	授業で紹介する。			
評価方法	韓国語能力だけでなく、授業への意欲、積極性などを評価の対象とする。			
参考URL				
その他				

科目分類	韓国語特別演習Ⅱ			対象学年	1
授業科目	韓国語特別演習Ⅱ			学期	秋学期
代表教員	鄭 世桓			選択/必修	選択
科目コード	H901106	授業形態	講義	単位数	1.0
授業の概要	<p>[入門レベル] 「韓国語特別演習Ⅰ」の続きとして、韓国語における文法や表現など基本的な能力を見につけてもらう。</p> <p>[初級、中級、上級レベル] 「韓国語特別演習Ⅰ」の続きとして、講読形式の授業とするが、受講生の研究内容と関連のなる文章を読む訓練を行うことを目標とする。</p>				
授業の内容	<p>[入門レベル] 基本的な韓国語能力を見につけてもらうために、基本的な文法や会話、語彙などを学習していく。</p> <p>[初級、中級、上級レベル] 受講生の研究と関連のある内容の文章を読み、それについて発表をする訓練を行う。</p>				
テキスト	<p>[入門レベル] 『パルン韓国語』朝日出版社 2017年</p> <p>[初級、中級、上級レベル] 担当教員が用意する。</p>				
参考文献	授業で紹介する。				
評価方法	韓国語能力だけでなく、授業への意欲、積極性などを評価の対象とする。				
参考URL					
その他					

科目分類	ロシア語特別演習I			対象学年	1
授業科目	ロシア語特別演習I			学期	春学期
代表教員	シローコフ ワジム			選択/必修	選択
科目コード	H901107	授業形態	講義	単位数	1.0
授業の概要	<p>ロシア語の文字、発音、語彙、文法をすでに習ったことのある学習者を対象に、知的内容と一体化したロシア語の研究のみならず、職業生活の中においても、知的コミュニケーションを可能とするロシア語能力を身につける。そのために、学習者の学問領域と関連性のある原典や研究書の講読（和訳と解釈）を主として行う。読んだ内容に対する自分の意見の表わしかたや学問的な考察の述べ方をできるように目的とする。</p> <p>文字と発音の習得はロシア語学習の難所と見られるから、授業で音声学習で迷う点（強勢の位置、ロシア語独特の子音の練習、音調など）が重視される。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎的な語彙と文法を理解することができる。 ・ 基礎的な文章の内容を読み取ることができる。 ・ 基礎的な文章の内容を聞き取ることができる。 				
授業の内容	<p>第1回目にテキストの選定を行い、第2回目からは購読をおこなう。テキストは、日本人に馴染みやすいものを選択することとする。授業においては、単なる文献の読解にとどまらず、選定した文献の著者の紹介や、著書が書かれた時代背景についても紹介する。</p>				
テキスト	<p>沼野恭子 匹田剛 前田和泉 イリーナ・ダフコワ（著） 「大学のロシア語I」東京外国語大学出版会 2015年 日露対訳 チェーホフ短編集【朗読音声付】IBCパブリッシング 2016</p>				
参考文献	<p>栗生沢猛夫 「図説 ロシアの歴史」 河出書房 2016年 大山 麻稀子（著） 日常ロシア語会話ネイティブ表現(CD+テキスト) 語研 2015</p>				
評価方法	<p>3分の2以下の出席者に対しては成績評価を与えない。出席回数、事前学習の状況、毎回の授業態度を考慮して総合的に評価する。</p>				
参考URL					
その他					

科目分類	ロシア語特別演習Ⅱ			対象学年	1
授業科目	ロシア語特別演習Ⅱ			学期	秋学期
代表教員	シローコフ ワジム			選択/必修	選択
科目コード	H901108	授業形態	講義	単位数	1.0
授業の概要	<p>国際政治や文化の舞台などで活躍しているロシアは北東アジア地域の重要な一員である。ソチの冬季オリンピック、サッカーのワールドカップなどの開催地になったロシアは常にマスコミの注目の対象になっている。ニュースに出ているロシア語テキストの解読を通して、ロシア語学習者の解読力と語彙力強化を目指す。</p> <p>中級レベルでロシア語能力を高めるためには「語形成知識」の整理とたしかめの練習を行う。接尾語の意味と機能を知る練習、語根や派生の元になっている語を探し出す練習、同一語源にさまざま接辞を付けて語を作る練習、接辞の意味のたしかめと定着のための練習などを主とする。</p> <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単純な文法から比較的に複雑な表現のあるテキストを解読できる。 ・簡単な作文を書くことができる。 ・文法事項を理解し、ごく簡単な会話ができる。 				
授業の内容	<p>第1回目に学習者にとって興味のある分野の選定を行い、第2回目からは購読をおこなう。授業においては、単なる文献の読解にとどまらず、選定した分野の背景の紹介や、関連する議論を紹介する。受講生は、登場人物とロシア語のキーワードをレジュメにまとめておく。</p>				
テキスト	Чернышов С.И., Чернышова А.В. 「さあ、はじめよう！大人のためのロシア語基礎コース 第1部第1巻」 Санкт-Петербург <3латоуст> 金口出版 2019年				
参考文献	<p>研究者露和辞典、研究者、2009年 中村喜和・和田春樹 著 「世界歴史の旅 ロシアーモスクワ・サンクトペテルブルク・キエフ」 山川出版社 2013年 栗生沢猛夫 「図説 ロシアの歴史」 河出書房 2016年</p>				
評価方法	3分の2以下の出席者に対しては成績評価を与えない。出席回数、事前学習の状況、毎回の授業態度を考慮して総合的に評価する。				
参考URL					
その他					

科目分類	モンゴル語特別演習I			対象学年	1
授業科目	モンゴル語特別演習I			学期	春学期
代表教員	井上 治			選択/必修	選択
科目コード	H901109	授業形態	講義	単位数	1.0
授業の概要	<p>モンゴル語の知識を全く持たない者にはモンゴル国で用いられるキリル文字表記のモンゴル語をアルファベットから基本的文法までを教え、辞書や文法表を頼りに初歩的な解読ができるレベルに達することを旨とする。</p> <p>すでにキリル文字表記あるいはウイグル文字表記のモンゴル語の基礎知識がある受講生を対象に、それぞれが専門とする分野（歴史、文化、社会、国際関係、環境など）に関連する原典や研究書の講読（和訳と解釈）を中心に進める。音読を通じての発音指導も行うが、主な力点は、文法の解説を通じて読解力や理解力を向上させることにおく。これとあわせ、研究に求められる知識も習得してほしい。</p>				
授業の内容	<p>第一回目にテキストの選択を行ったのち、受講生の分担箇所を決め、第二回目から講読に移る。受講生は割り当てられたテキストを和訳してレジュメを作成し授業に参加すること。授業では誤訳チェックに終始せず、その文章の解釈や著者の主張にたいする受講生の見解を質すので、レジュメ作成とあわせて、解釈と見解も事前にまとめておくこと。第八回をめぐり、受講生は各自の到達目標を担当者と協議して決定し、最終回の授業で目標達成について自己評価してもらう。なお、まったくの初学者には文字と発音、基本的文法から教授し、原文読解にたる基本的読解力の習得をめざす演習とすることも可能だが、既習者が参加している場合には、初学者にたいしては別枠で補講を行う。</p>				
テキスト	<p>初学者用のテキストはこちらで準備する。</p> <p>すでにモンゴル語の知識を持っている受講生とはテキストを相談してきめる。担当者は以下の文献のいずれかを講読したいと思っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○歴史：ブリヤートのモンゴル語年代記 ○文化：バヤスガル編『青海モンゴル資料集』瀋陽、1997年。 ○社会：ムンプ著『アラシャーのイスラム教徒モンゴル族』フフホト、2005年。 ○国際：ウィトン著『（モンゴル語訳）万国公法』ウランバートル、2006年。 ○環境：エルデネトヤ編『モンゴル人の環境保護術』ウランバートル、2003年。 				
参考文献	<p>モロ辞書として以下のふたつを紹介する。</p> <p>小沢重男著『現代モンゴル語辞典（改訂増補版）』大学書林、1994年。</p> <p>王海清著『蒙日辞典』タカラ出版サービス、1992年。</p>				
評価方法	<p>出席回数と授業への積極性（予習、復習も含む）、開講当初と学期末の実力の伸び具合にたいする担当者の評価、受講生の自己評価を総合的に判断して評価する。初学者については、出席回数と授業への積極性（予習、復習も含む）、文献読解に足るレベルにどれだけ近づいたかを担当者が判断して評価する。</p>				
参考URL					
その他	<p>講義進行やテキストに関する希望は随時受け付ける。</p>				

科目分類	モンゴル語特別演習Ⅱ			対象学年	1
授業科目	モンゴル語特別演習Ⅱ			学期	秋学期
代表教員	井上 治			選択/必修	選択
科目コード	H901110	授業形態	講義	単位数	1.0
授業の概要	<p>「モンゴル語特別演習Ⅰ」を履修し、さらにレベルアップをめざす受講生を対象とする。テキストは、Ⅰに示したものを使用する予定である。レジュメと和訳を中心に進行するが、受講生の実力と要望に配慮しながら授業進度と到達目標を設定する。Ⅰとのレベルの違いを明確にするために、原典史料の講読は精読を、研究書の講読は多読を旨として進める。また、授業の一部をモンゴル語で行う。</p>				
授業の内容	<p>第一回目にテキストの選択を行ったのち、受講生の分担箇所を決めるとともに、受講生各自が到達目標を設定して担当者に申告する。第二回目から講読に移る。受講生は割り当てられたテキストを和訳してレジュメを作成し授業に参加すること。授業では誤訳チェックに終始せず、その文章の解釈や著者の主張にたいする受講生の見解を質すので、レジュメ作成とあわせて、解釈と見解も事前にまとめておくこと。最終回の授業で目標達成について自己評価してもらう。</p>				
テキスト	<p>Ⅰと同じテキストを使用したいと考えている。 初学者用のテキストはこちらで準備する。 ○歴史：ブリヤートのモンゴル語年代記 ○文化：バヤスガル編『青海モンゴル資料集』瀋陽、1997年。 ○社会：ムンフ著『アラシャーのイスラム教徒モンゴル族』フフホト、2005年。 ○国際：ウィトン著『（モンゴル語訳）万国公法』ウランバートル、2006年。 ○環境：エルデネトヤ編『モンゴル人の環境保護術』ウランバートル、2003年。 または、服部文庫所蔵のモンゴル語文献から各自の研究に有益な文献を探求しテキストにしてもよい。</p>				
参考文献	<p>モロ辞書として以下のふたつを紹介する。 小沢重男著『現代モンゴル語辞典（改訂増補版）』大学書林、1994年。 王海清著『蒙日辞典』タカラ出版サービス、1992年。 その他、辞書や文法書は担当者の所にそろっているので必要に応じて提供する。</p>				
評価方法	<p>出席回数と授業への積極性（予習、復習も含む）、開講当初と学期末の実力の伸び具合にたいする担当者の評価、受講生の自己評価を総合的に判断して評価する。</p>				
参考URL					
その他	<p>講義進行やテキストに関する希望は随時受け付ける。</p>				

科目分類	日本語特別演習I			対象学年	1
授業科目	日本語特別演習I			学期	春学期
代表教員	犬塚 優司			選択/必修	選択
科目コード	H901111	授業形態	講義	単位数	1.0
授業の概要	<p>中級以上の日本語能力のある外国人留学生を対象とし、日本語の学術文献を読解できるようにすることを目的とする。日本語文献を読み、内容についての質疑応答、学生同士の討論、文章の要約等を通して、文献の内容の理解を深めることができるようにする。学生が専門とする分野の文献等を教材として用いる。あわせて、日本語で研究レポート等を書く上での注意点を学んでいく。</p>				
授業の内容	<p>第1回 オリエンテーション。 第2回 文章の読解。 第3回 文章の読解。 第4回 文章の読解。 第5回 文章の読解。 第6回 文章の読解。 第7回 文章の読解。 第8回 文章の読解。 第9回 文章の読解。 第10回 文章の読解。 第11回 文章の読解。 第12回 文章の読解。 第13回 文章の読解。 第14回 文章の読解。 第15回 文章の読解。</p> <p>第一回の授業において、オリエンテーションを行う。第二回以降、日本語の文章の読解を進める。読解においては、まず音読を行い、語句の意味の確認・説明、文章全体の内容確認、内容の要約を行うとともに、学術的な文章に特徴的な表現を指摘し、その用法上の注意点を解説する。また、適宜課題を課す。なお、受講生の日本語能力によっては、発音の矯正など初中級段階の指導を行う。</p>				
テキスト	プリントを配布する。受講学生の興味に配慮して、文章を選択する。				
参考文献	松田浩志ほか編『テーマ別上級で学ぶ日本語ワークブック（改訂版）』（2008年、研究社） 宮原彬編『留学生のための時代を読み解く上級日本語』（2006年、スリーエーネットワーク） 庵功雄他編『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』（2001年、スリーエーネットワーク）				
評価方法	出席・授業への積極性を40%、課題を60%として、総合的に評価する。				
参考URL					
その他					

科目分類	日本語特別演習Ⅱ			対象学年	1
授業科目	日本語特別演習Ⅱ			学期	秋学期
代表教員	犬塚 優司			選択/必修	選択
科目コード	H901112	授業形態	講義	単位数	1.0
授業の概要	<p>中級以上の日本語能力のある外国人留学生を対象とし、日本語の学術文献を読解できるようにすることを目的とする。日本語文献を読み、内容についての質疑応答、学生同士の討論、文章の要約等を通して、文献の内容の理解を深めることができるようにする。学生が専門とする分野の文献等を教材として用いる。あわせて、日本語で研究レポート等を書く上での注意点を学んでいく。</p>				
授業の内容	<p>第1回 オリエンテーション。 第2回 文章の読解。 第3回 文章の読解。 第4回 文章の読解。 第5回 文章の読解。 第6回 文章の読解。 第7回 文章の読解。 第8回 文章の読解。 第9回 文章の読解。 第10回 文章の読解。 第11回 文章の読解。 第12回 文章の読解。 第13回 文章の読解。 第14回 文章の読解。 第15回 文章の読解。</p> <p>第一回の授業において、それぞれの受講生が読みたい文章を提案し、授業で扱う文章を選択する。第二回以降、日本語の文章の読解を進める。読解においては、まず音読を行い、語句の意味の確認・説明、文章全体の内容確認、内容の要約、日本語表現の用法上の注意点の解説を行う。また、その文章を提案した受講生を中心に、内容に関する受講生間の討論を行う。適宜課題を課す。なお、受講生の日本語能力によっては、発音の矯正など初中級段階の指導を行う。</p>				
テキスト	プリントを配布する。				
参考文献	松田浩志ほか編：『テーマ別上級で学ぶ日本語ワークブック（改訂版）』（2008年、研究社） 宮原彬編『留学生のための時代を読み解く上級日本語』（2006年、スリーエーネットワーク） 庵功雄他編『中上級を教える人のための日本語文法ハンドブック』（2001年、スリーエーネットワーク）				
評価方法	出席・授業への積極性を40%、課題を60%として、総合的に評価する。				
参考URL					
その他					